

第6回 熊本市自治推進委員会会議録概要

日 時：平成27年3月10日（金） 午前10時00分～11時30分

会 場：議会棟 議運・理事会室

出席者：明石委員長、田中副委員長、緒方委員、越地委員、篠塚委員、毎熊委員

毛利委員、安永委員、遊佐委員

欠席者：吉村委員

事務局	1 開 会 ただ今から、第6回「熊本市自治推進委員会」を開会いたします。 今回の委員会は、今年度、最後の委員会となります。2月に開催しました、第5回の委員会で、市が行っている情報共有の為の取り組み事例の検証を踏まえて、委員間で話し合い、意見の共有と整理を行っていただいたところです。本日の委員会では、前回、整理した意見をもとに、提言に向けた最終的な意見の整理を行っていただきます。 また、委員会は正午までの2時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。
事務局	続いて、配布資料の確認をさせていただきます。 【資 料】 ○式次第 ○検証事業一覧 ○意見整理表 ○意見のまとめ ○平成27年度検証スケジュール 資料 1 資料 2 資料 3 資料 4 ※当日配布 【参考資料】 ●第5回ワークショップ成果物の写真 第4回の委員会の議事録につきましては、既に各委員にご確認いただき、ホームページ上で公開しています。 また、第5回の委員会につきましては、委員間での検証作業の様子について写真を掲載させていただきました。 それでは、明石委員長よろしくお願いいたします。
明 石 委員長	事務局からのお話がありましたように、一年間、皆様方にはいろいろとご協力いただき、ご意見をいただいていたところでございます。また、前回は田中副委員長にご苦勞いただき、ワークショップ形式でご協議していただきました。本日は、これまでの協議を踏まえて、4月から始まる第2ステップの検証に向けて、その中間の取りまとめについて、整理の作業をしていただくことになります。 それでは、第6回の自治推進委員会を始めたいと思います。審議に入ります前

	に、まず会議の成立について、事務局より説明をお願いします。
事務局	ご報告させていただきます。 本日は、吉村委員が所用でご欠席されていますため、委員 9 名にご出席をいただいています。従いまして、熊本市自治推進委員会規則第 5 条第 2 項の規定により、本日の会議が成立していることをご報告いたします。
明 石 委員長	ありがとうございました。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。 それでは、本日の議事であります、「今年度のまとめ」を行ってまいりたいと思います。先ほど、事務局からもお話がありましたとおり、本日は、今年度、最後の委員会となります。これまで、一年間行って参りました、市の情報発信、情報共有の取り組みの事例検証を踏まえて、これまで、それぞれの委員から多くのご意見をいただいて参りました。本日は、最終的な市への提言に向けた、委員会としての意見を整理し、今年度の意見としてまとめて参りたいと思います。 まずは、今年度の意見のまとめのため、事務局より資料を用意していただいておりますので、ご説明をお願いします。
事務局	※資料 1 「検証事業一覧」、資料 2 「意見整理表」、資料 3 「意見のまとめ」により一括して事務局説明
明 石 委員長	ありがとうございました。ただいま事務局から、資料 1 「検証事業一覧」、資料 2 「意見の整理」、資料 3 「意見のまとめ」について、一括してご説明がありました。 まずは、ただ今の、資料の内容やご説明に対して、ご質問等をいただきまして、その後、「意見のまとめ」の詳細な内容について、ご意見をいただくといった、2 段階に分けて進めさせていただきます。 まずは、ただ今のご説明或いは資料の内容について、ご質問等はございませんでしょうか。 <委員からの質問特になし> 特にありませんでしょうか。それでは、意見のまとめの中身について、ご意見を伺って参りたいと思います。 事務局において整理を行われました内容について、ご説明をいただいたところですが、資料 2 「意見整理表」、それをまとめた資料 3 「意見のまとめ」をご覧いただきながら、まずは、皆様方の発言の意図と違う、「自分が言った事は、このような意味では無い」などの意見があれば、お聞かせいただければと思います。
田中副 委員長	ご意見が出にくいようですので、これまでのおさらいも含めて私の方で少し整理させていただきます。 前回、委員の皆様は模造紙を利用して、作成していただきました意見のまとめについて、本日はご用意いただきました。前回のワークショップ形式で協議し模造紙に作成した、これらの成果物と資料 2 「意見整理表」の関係について、少し、振り返りを行いたいと思います。

第5回の委員会において、ワークショップ形式で、第3回の区の取り組み5事業と、第4回の全市的な取り組み3事業について検証いたしました。それぞれの取り組みについての良い点と改善点を、情報の発信や情報の共有を意識していただきながら、委員お皆さんに自由に意見を出してもらいました。良い点についてはピンクの付箋紙に、改善点については青の付箋紙に、それぞれ書いてもらいながら発言していただきました。二つのテーブルに「デコポンチーム」と「ももチーム」として分かれていただいて、良い点、改善点についてそれぞれ意見を出し合っていたいただいたものから、区の取り組みの改善点、全市的な取り組みの良い点について、それぞれのチームから出た意見をクロスして、検証の為の協議を行い、委員の皆さんでまとめていただきました。

時間の都合上、区の取り組みの良い点と、全市的な取り組みの改善点については、意見も多く、当日の委員会でまとめることは難しいと思われたため、後日、事務局の皆さんにまとめていただいたところです。そのような経過で、出来上がったものが、これらの図であり、それをまとめたものが、資料2「意見整理表」ということになります。委員会での協議では、それぞれのチームがお互いの意見をクロスして、検証の為の協議を行いましたが、恐らく、模造紙に書き出して、このような絵にしてみると、4枚の模造紙の中に共通した考えや意見があるということが見えてきたかと思います。例えば、資料2「意見整理表」の区のまちづくりの取り組みと全市的な取り組みを比較していただくと、「発信の工夫」、「わかりやすさ」、「巻き込み」、「丁寧さ」までは一緒ですが、全市的な取り組みの方は、大きな取り組みなので、市民への教育が大事であったり、また、イベント的にしないと、なかなか広がりを見せないという、意見でまとまったのかと思います。

資料2のように表になってしまうと味気ないものになってしまうますが、審議会では恐らく珍しいと思うのですが、こちらの模造紙は皆さんが出された意見を、事務局と私たち市民委員が一緒になってつくりあげたものです。そのような意味では、この委員会がチームとしてまとまってきたということが、感じられたのではないかと思います。

ワークショップでの発言の際も、良い点というものは、意外と発言し易く、まとめやすいのですが、改善点についても、その改善策まで考えて発言されていたことが、印象的で凄いなと思いながら聞いていました。全市的な取り組みは、改善点がやや多い、区の取り組みはそれぞれの区の特徴を生かして、市民が頑張っている様子が伺えました。情報や事業に対する、受け手の違いで、いろいろと良い点、改善点が見えてくるのかなと思いました。

そのようなことで、本日は、資料3「意見のまとめ」に書かれていることが、皆さんから出された言葉を、上手くまとめられているのかということ、確認すればよいのではないかと思います。

ここから意見になりますが、資料2「意見整理表」にある意見と、資料3「意見のまとめ」にある8つの項目が繋がっていないような印象を受けます。おそらく、その点を議論していけばよいのではないかと考えているのですが、8つの項

	目を3つに括ってご説明していただいています。情報の発信という部分で①から③、情報の浸透で④、⑤、情報の理解で⑥から⑧と3ブロックに分けて、8つの意見に整理していただいています。それが多いのではないかという印象を受けました。分かりやすく、情報の発信と共有の二つでいいのではないかと考えています。情報の出し方と伝え方みたいな方法の整理でよいのではないのでしょうか。例えば、⑥のところに市民に考えさせる情報の発信とありますが、これは、発信のところに無くて、理解のところで整理されています。そのように、意見の整理項目が多すぎて、分かりにくくなっているのではないかと考えています。 まずは、皆様の論議のきっかけとして少し意見させていただきました。
明 石 委員長	ありがとうございます。 非常に分かりやすく整理をしていただきました。前回のワークショップ形式での議論、私も途中まで拝見させていただきましたが、委員の皆様にとくさんの意見を出していただき、事務局にて資料2に整理していただいております。漏れや主旨が違ような意見は入っていないと思いますが、その辺もご確認をお願いします。 意見のまとめについて、田中先生から3つは多すぎるのではないかと、情報の発信と情報の共有の2つに整理できないかというご提案がありました。 それから私が一番気になった点は、「市民にも考えさせる情報の発信」の「考えさせる」というところです。すごく上から目線のような印象を受けます。市民の方が見られたときに、反発を感じられる方がいらっしゃると思います。 資料2については皆様の意見を整理したのですが、それをもとに作られたまとめについては、少し項目が多すぎるということでしたが、委員の皆様いかがでしょうか？
田中副 委員長	今の明石委員長の意見と、先程の私の提案について実際まとめられた事務局からご意見をいただけないでしょうか。
事務局	先程の田中副委員長からの意見の整理としては多いのでは？というお話がございました。確かに前回の議論がメインになるべきだと思いますが、事務局としては第1回～第4回までにいただいた意見についても非常にいい意見をいただいておりますので、そういった意見も含めたところで整理をしていくと、結果8つの項目になりました。 それから、明石委員長からいただいた「市民に考えさせる」という表現については、確かに言葉としては上から目線の部分がございますが、市民の皆様が何気なく情報を受けて、考えるきっかけとなるような情報というような意味合いで、考えさせるというよりは、身近なものとして感じてもらい自然に考える、考えるきっかけになるような投げかけも必要というところで整理をさせていただいております。
田中副 委員長	私の提案は、発信と共有に分けて、発信にまとめの項目①②③⑤⑥を入れて情報発信の5か条にして、④と⑦⑧を共有の2か条として、あわせて7つの項目にしてまとめてはいかがでしょうか？

	どちらかというとも情報の発信に偏った情報共有の話になっていると思うので、もちろん市民の側にも学ぶことは必要ですし、無関心層をどうするかということについても市役所の方はすごく問題視されていました。委員会の議論の中では無関心層がどうという話はそこまで出ていなかったと思います。委員会の中での議論としては資料2に集約されていますが、資料2から資料3へまとめられる際に無関心層の話などを付加されるのはかまわないと思いますが、そこについてはきちんと説明をしていただかないと理解ができないと思います。 明石委員長の意見はおっしゃるとおりだと思っております。
越 地 委 員	中間報告書の位置づけについてお尋ねします。 これを市長へ出すということでしょうか？おそらくこの中間報告書とは、これまでの1年間やってきたことの確認ということで捉えていいのでしょうか？ それから今日やったことが今後どうつながっていくのかについてお尋ねします。
明 石 委員長	ありがとうございます。 越地委員のおっしゃったこの中間報告の位置づけ、どういう意味をもつのか。今までの1年間の議論を振り返って、残りの1年間また議論を進めていくのですが、その中でどういう意味を持つのか。今までの1年間やってきたことを共通認識するための取りまとめという位置づけでいいのかということです。
事務局	越地委員がおっしゃったように、市長に答申をするようなものではございません。あくまでも1年間6回の委員会での議論を委員の皆様と事務局でおさらいをし、共通認識を図り、そのうえで情報共有という最終的な答申に向けて来年度これまでの議論に何を補足しなければならないのか、また何を検討していくのかを含めて考えていくための中間報告でございます。担当者としては最終的な答申書を想定しながら中間報告を作成しておりますので、これまでの議論で出てきていないようなものが見え隠れするところもございますが、前提としてはこれまでの6回の議論のとりまとめを委員会と事務局で共通認識をして、来年度の最終的な答申に向けて何を議論していくかに向けた、中間報告として捉えていただきたいと思います。
越 地 委 員	ということであれば、内部で共有する文書であると認識させていただければ発言もしやすくなります。 先程、明石委員長からもありました「考えさせる情報」については、非常に重要だと思います。「考えさせる」という表現方法については別にして、この「考えさせる情報」とはきわめて重要だと思います。つまり、今の情報と言うのはお知らせがほとんどだと思います。例えば江津湖の花火についても何年かぶりに花火を復活しますというお知らせが流れてくるのが一般的です。江津湖の花火についてもその途中にいろんな議論があったのではないのでしょうか。それをみんなに考えてもらうような情報の出し方、情報を受けた市民ひとりひとりが立ち止まって、これは自分たちの問題だ、自分はこう思う！というような思いを喚起させるような情報提供。そういう情報の出し方は、行政としては非常に怖いと思います。そ

	れよりも決まったことを伝達したほうが簡単だと思いますが、大切なのは、立ち止まって考えるような情報だと思います。 私は議会広報を全国各地で勉強させていただいておりますが、そのなかでも重要視しているのがここなのです。今の議会広報は、伝達ばかりで住民の人が考える情報がありません。それではこれからの情報は成り立たないと思います。一步踏み込んで、「議会としてこういう課題を抱えておりますが皆さんどう思いますか??」というような問いかけを含んだような情報の提供が必要だと思います。ただ、言うのは簡単ですが実際行うのは大変で、そこから新たなことが始まりますから手を付けたくない部分もありますが、個人的にもこの⑥の考えさせる情報というのは価値のあるテーマだと思っています。 方法論については難しい点もあると思いますが、精神論、心構えとしては市民の皆さんにも考えてもらい、一緒に考えていけるような、情報提供のあり方と言うのは大事にしていきたいと思っています。
明 石 委員長	ありがとうございます。 越地委員のおっしゃった意見は非常に大事な点であり、私も同感いたします。 それから田中副委員長のおっしゃった情報の発信と共有、その本質的な部分は越地委員がおっしゃったとおり市民自身が情報を受け取ろうという意識がないと、頭の上を通り過ぎていくだけで、情報として意味を持たないわけですが、それをいかに自分自身の問題としてしっかり受け止めていこうという気持ちにさせるか、そういう情報の出し方が大事なポイントだと思います。
毛 利 委 員	個別の項目についての意見でもよろしいでしょうか？ 資料２の「全市的な取り組み」「巻き込み」「改善が必要な点」にあります、「市役所各課との連携が必要」というものと、それから資料３の⑤「行政の課を越えた連携協力による情報の発信」とありますが、私もこれについては非常に関心があります。いろんな課題やテーマによって関係課に相談をしにいったこともございますが、「知らなかった」などと言われることもありました。各区との連携もちろん必要ですが、各課との連携も必要だと思います。テーマや議題によっては、課を越えた短期間のプロジェクトチームを作り検討をしていかれるともっと上手くいくような気がしています。 例えば先程ありました花火にしても MICE にしても都心活性課が MICE について一生懸命やっておりますが、各区のまちづくり推進課や地域団体や中心市街地などときちんと話をしているのでしょうか。私も一度傍聴に行ったことがあります。桜町の一部の人は委員として入っておりますが、桜町全体の意見は出ていないと思います。また、熊本駅から中心市街地までのまちづくりや MICE について、七商協が意見を出す機会や一緒に話し合う機会もありません。 それから花火についても議会でたくさんの継続についての意見が出たにもかかわらず、花火を中止したにも関わらず、いつの間にか江津湖で復活させるということになっておりました。これにつきましては、中心市街地のほうから藤崎台での花火大会開催についての要望書が出ると思います。 そういう花火大会一つを

	とってみても、意見を出す窓口や実際の担当される窓口などが分かれているように思え、うまく連携がとれていないような気がします。 資料２と資料３の⑤については書き方をもう少し工夫していただき、特に⑤の３行目に「容易に情報を届けることが可能となる」と書いてありますので、逆に言えば連携をしないと容易には情報を届けることはできないと言うことかと思いますが。その辺の表現についてはもう少し考えていただきたいと思います。
明 石 委員長	ありがとうございます。このあたりは特に縦割りの枠を超えた全庁的な連携・協働については委員の皆様から何度も出ていた大事な点だと思います。
遊 佐 委 員	読ませていただいた中で、やはり市民の皆様には年齢層を問わず理解していただくためには、一種の行政的な言葉については理解が難しい世代の方もいらっしゃると思いますので、市民の方に発信する際にはできる限り明確な、皆様が理解し得る言葉を使用していただくという配慮も必要だと思います。このままとめていただいたものについても事務局の苦勞が見えるのですが、資料２の「意見整理表」ではすごくわかりやすい表現で書かれているのに、資料３の「意見のまとめ」ではすごく行政的な色合いが濃くなっているようで、これを市民の方が見られたときにどれだけ興味深く読んでいただけるのかなという不安を感じました。その点について検討をお願いします。
篠 塚 委 員	私は、資料３の意見のまとめの⑦「市民の学びの機会を充実」についてと資料２の「教育」についてですが、子ども達が学校で水の大切さや環境問題やごみについて学んできても、家庭の中で意識が薄れてしまい、日常生活に戻ってしまうということがよくあるので、子ども達が学校で勉強したのと同じようなタイミングで地域の方が出前講座や説明会などで学ぶ機会があれば、家庭の中でも話題になり継続的な取り組みに繋がるきっかけになるのではないのでしょうか？ こちらのまとめの中には学校教育の連携や家庭教育や社会教育などとの連携という言葉がなかったので、もしかしたら④のネットワークに関連してくるのかなとも思いましたが、よければ学校教育や家庭教育との連携という言葉も入れていただけたらと思いました。
緒 方 委 員	私も篠塚委員と同じで教育についてですが、学校教育で教育されたものを家庭の中で話ができるように、項目の中に入れていただきたいと思います。 それから「市民に情報が届き、興味と関心を惹くために」についてですが、届けるということですので、行政側からの発信なのですが、今回の区のまちづくり推進事業についてはそれぞれ市民が考えて取り組まれているので、「市民自らまちづくりを行う」という項目を一つ付け加えると、情報の８つのことを自分のこととして捉えることができるのではないのでしょうか。
毎 熊 委 員	まとめられたものを見たときには、すごいなと思いましたし、田中副委員長の話を聞くと確かにそうだなとも思いました。いかにこれを市民の皆様が理解しやすいようにしていくかということが重要だと思います。それを考えたときには、「発信」と「共有」と言うように大きい項目で２つに分けて考えたほうが分かりやすいのかなと思いました。

安 永 委 員	私も同じで、「発信」「共有」の2つに分けてまとめたものをもう一度みてみたいと思いました。
明 石 委員長	ありがとうございました。 先程、田中副委員長からご提案のありましたまとめ方、情報の「発信」と「共有」これは出す側と受ける側の2つで整理するとシンプルで分かりやすいと思いますのでこの2軸で整理をしていただいて、各委員の皆様からいただきましたご意見、田中副委員長から具体的な項目の配分についてのご意見もございましたが、そういったものを踏まえて整理をしていけば分かりやすいとおもいます。
田中副 委員長	今年1年のまとめとして非常に良くまとまっていると思います。事務局で入れておかなければならないという項目についてもすごく大事な項目だと思います。 先程、越地先生からもありました⑥については、私も非常に重要だと思っております。みなさまのお考えもいただきまして、あと1年ありますので、前期としてはどちらかというと「情報の発信」にウエイトを置いて検討してきました。「共有」については特に参画なども必要となってくるので、来年より充実させて検討していきたいと思います。 先程、①②③⑤⑥と言いましたが、いま精査してみると②と③については、表現は違いますが表裏を言っているので一つに整理して、①と②③、⑤も少し入ってくるかなと思いますので⑥をとくだしして、例えば「発信」を3項目にして共有を2項目として、「共有」の2項目については出し手と受け手の両方でやっていくべきことなので、今後そういう場をどう作るか、無関心層をどう引き込んでいくかについて来年度、検討していくべきではないのかなと思っています。 できたこととできなかったことを分けるという意味でも現況の分け方でいいのではないのでしょうか。先程、越地先生に整理していただいたように、あくまでも今年1年の中間報告ですのでそういう場としてのまとめでいいのではないのでしょうか。
越 地 委 員	二つにくくるという事は私もわかりやすいと思います。「発信」と「共有」ですね。「共有」の中に意見のまとめ(案)で三分割されている「浸透」と「理解」というのが含まれていると思いますので、まとめ(案)とは矛盾しないと思います。 このまとめ全体を見たときに、この中には心構え的なものがありますよね。例えば、発信者側に熱意がないと伝わらない、タイミングを逃さないなどのようなものは心構えですよね。あとは共有する際の具体的方法論というのがこれからの課題になってくるかと思います。要は、一般的にはそれはそうだよねというものを、どのようにして熊本市は共有させていくのか、浸透させていくのか、ここに尽きるわけです。 そのとき思ったことを二つだけ今日は伝えます。一つは自治協の存在というのをもっと重視すべきであろうと思います。つまり、各校区に自治協ができ、自治協には各種団体の連携・調整というような役割の冠が元々ついております。各団体の連携というとき、情報の連携は各校区で同じ情報を的確に隅々まで伝えるス

	タートは自治協だと思います。各種団体はそれぞれの情報は持っています。でもそれは縦で繋がっている情報で、地域に横に伝えていくということは、各団体長からなる自治協が、ここでその役割を十分に果たせると思います。 私は画図校区に所属しておりますが、つい3週間前に自治協を見直す委員会というものがスタートしました。まだ会合は2回しか開催しておりませんが、自治協を改めて見直そうとしたとき、課題はいくつかあります。そのうちの一つは「情報」なのです。これは偶然なのですが、いろんな団体で行っていること、何が課題となっているかなど、校区全体で把握していないという話になりました。確かにそうなのです。では、どうやって情報を共有して把握するのかとなったとき、それは自治協という場でしか出来ないはずです。防犯協会は、今このような取り組みを行っていて、こういう問題がある、社協はこうだなど、改めて自治協の情報共有、伝達、浸透の場としての役割を再確認し、それを新年度の各種団体の総会前に打ち出そうとしています。自治協がそういう役割ということの確認を94校区で行った方がいいのですが、各自治協はわかっている様でわかっていないと思います。自治協は決して皆さんを上から監視するものではなく、情報を共有する場であり、いろんな情報を出し合いましょうなど、情報一つにしても我々が把握しないと校区全体に伝わらないという意識を更に持ってもらうために総会へ発信していきたいと思います。 もう一ついうと、仮に意識を強く持ってもらったとしても、それに対応できる習熟度ができていないと思います。気持ちではそのようにしたいと思っても、ではどうやってやるのか、誰がやるのか、そういうのは非常に希薄です。よってそういう面も市の方のいろんな会合等で、自治協の重要性、役割を確認し、スキルアップの場、研修なども行ってもらいたい。 私どもの校区では、新年度より各種団体から広報委員を集めた会議をやろうということになっています。広報委員が自治協の場に集まって、情報を出し合い統一、あるいは共有を図ろうと考えています。繰り返しになりますが、地域浸透という意味で、自治協の役割は極めて大きいだろうと思います。 もう一つは市政だよりです。私は公式の情報は市政だよりだと思っています。新聞などで断片的な情報は得られますが、市政だよりに載っていたらそれを疑う人はいません。そういう意味では市政だよりは大事なのです。市政だよりは報告型の情報で終わっている寂しさはありますが、人口が70数万人にもなれば、考えさせられるという部分がないのは仕方ないです。情報の内容をチェックするうえでは、市政だよりは重要であろうと思います。 市政だよりにはモニターと呼ばれる方はいらっしゃいますか。
事務局	今はおりません。
越 地 委 員	モニターという存在もあってよいのではと思います。市政だよりは紙面における公式ホームページのようなものですので、市の情報が過不足ないか、偏りがなにかというのを市民目線でチェックし、意見を踏まえて充実させていくということもあっていいのかなと思います。

明 石 委員長	ありがとうございます。他、ご意見等よろしいでしょうか。それでは意見を整理させていただきます。 それでは、まずは今回の中間報告の位置づけは越地先生に整理していただいたとおり、あくまでも内部の２年間に渡る審議をしていく中間のまとめ、あくまでも内部手続きの関係ということで、これについては来年度に向けて、どう進めていくか、一つの出発点になる整理をするものだという位置づけをしていただいたところです。 それからまとめの方法ですが、田中副委員長のご提案のように、情報発信と共有ということで、出す方と受ける方で整理をしていく方がわかりやすいのではというのが委員の皆様方の大半のご意見であったと思います。したがって事務局でご用意をいただいた項目をはずすのではなく、情報の発信と共有の二つの切り口で再度整理をしていただきたいと思います。 今日委員の皆様方からご意見のでていた各課の連携や、縦割りの弊害を是正するような手立て、あるいは学校教育との連携、このあたりはどちらかというと方法論的なものになりますので、新年度の議論のテーマになるのかなと思いますが、そういったものを盛り込む土台となるような整理をさせていただければ、来年度へ向けた一つの出発点が確保できるのではないかと思います。 今回皆様方よりいただいたご意見や、前回のワークショップでお出しいただいたご意見を、情報の発信と共有の二つの切り口で整理をさせていただきます。来年度に向けて、越地委員がおっしゃった一種の方法論、田中副委員長のおっしゃった具体的に場をどう作るのか、あるいは自治協をどう活性化していくのか、市政だよりをどう活用するのか、市民の具体的・自発的な受け手としての積極性をどう引き出すのか、そういう話にも繋がっていくと思います。そのような整理をすると、非常にすっきりと分かりやすくなるのかなと感じたところでございます。このあたり、田中先生ご意見ありましたらお願いします。
田 中 副 委員長	非常に分かりやすく整理していただいたと思います。私はワークショップをさせていただいて、いいチームになってきたと感じています。事務局を含めてのチームだと思っていて、私は行政に関しては素人なので、情報を作るということを学ばせていただいたと思っています。来年度は受け手として共有の部分でどれだけ場づくりが出来るのか、ステークホルダーを増やしていく努力は誰がしていくべきか、いい課題がでてきたのではないかと思います。 明石委員長のまとめてくださったとおりで結構かと思います。
明 石 委員長	では、情報の発信と共有の二つの切り口で項目整理をいたしまして、その中で来年度は具体的なテーマ、どういう風に情報を共有していく場をつくるのか、行政用語をなるべくはずして一般の市民の言葉でどう伝えるか、そしてそれをどう受け止めるかというテーマにも繋がっていくかと思いますが、来年度は具体的などうすればいいのかという方法の議論が中心になってくるのかなという形で整理をさせてもらえたらと思っています。 意見のまとめの詳細な修正等につきましては、私と田中副委員長、そして事務

	局において修正をさせていただきますして、各委員の皆様にお送りさせていただきますので、お読みいただいてご意見等いただけたらと思います。そのような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。 ＜委 員 了 承＞ ありがとうございます。そのような形でお任せいただきたいと思います。存じます。 それでは先に進めさせていただきます。先ほども申し上げましたとおり、委員の皆様方のご意見によりまして、来年度ご議論いただくテーマが少し見えてきたような気がしておりますが、平成27年度の検証スケジュールについて審議を進めて参りたいと存じます。 来年度の予定につきまして、事務局からご説明をよろしくお願ひいたします。
事務局	※資料4 自治推進委員会の検証スケジュールについて説明。
明 石 委員長	はい、ありがとうございます。検証スケジュールということで今後の進め方について、先程からご意見いただきましたとおり、来年度に関しては主に方法論的「どうやれば情報の共有ができるのか」その辺りが中心になるのではないかとというご意見いただいたところでございます。第7・8・9・10・11回と会議を開催し、来年2月の第11回で答申書のまとめを行うというスケジュールになっております。先程の越地委員のご意見にもありましたが、答申書ということで対外的に出ることになると文言の検討にも時間がかかるのかと思います。その辺りはいかがでしょうか。お聞かせください。
事務局	答申書に関しましては、第10回で原案を作成し、最終的に最低でも2回はご議論いただきたいと思います。第7・8・9回で意識を含めた方法論的なものをご議論いただきまして、第10回で今年度の分を含めた答申書の最終的なたたき台を出させていただいて、第11回でまとめるというイメージを持っております。
明 石 委員長	ありがとうございました。 先程からのご意見ありますように、現状の姿と目指すべき理想のゴールとその間のギャップの課題を具体的にどうやって埋めていくことができるか、この辺りが議論のテーマになろうかと思います。具体的な検討内容や資料等については事務局の方でのアンケートや、他の先進都市の事例等を取り上げながら、越地委員がおっしゃっていた自治協との現況等を踏まえてのご議論になるかと思います。5月から来年2月まで長い期間に渡りますが、今後の進め方や予定について委員の皆様からご意見・ご要望等はございましたら、よろしくお願いします。
田中副 委員長	漠然としたイメージなのですが、二つあります。一つは楽しくやりたいというのがあり、2年という限りある時間ではありますが、このように一緒に仕事をしていくメンバーです。先日の懇親会もあり、非常にいい雰囲気になってきたと思っております。行政の皆様は異動があるかもしれませんが、私も明石委員長の下での仕事のやり方もだいぶ覚えてきたと思っておりますので、来年度も楽しくいき

	たいと思います。その為には、より事務局と委員の意思疎通といいますか、そういうものも大事かと思しますので、バタバタしないスケジュール管理をお願いいたします。 あと一つは来年度の7、8月になると今年度のことを忘れてしまうこともあるかと思ひます。これまで議論してきたことをきちんと覚えておけるように、今回の資料4のような今まで議論が見えるチャートを作っていただけると、議論がしやすくなり、積み重ねてきたものが見えるのでいいと思いました。
明 石 委員長	はい、ありがとうございます。委員の皆様、今後のスケジュールに関して、あるいは議論の内容についてご意見等ございましたら、よろしくお願いします。よろしいでしょうか。 それでは特にないようでございますので、資料4の予定に従って今後進めさせていただきます。田中副委員長のお話にもありましており、日程等につきましてはなるべく早く調整をしていただけたらありがたいと思います。 では次回の開催日程について、審議を進めさせていただきます。事務局より説明をお願いいたします。
事務局	※第7回自治推進委員会の日程について説明し、3つの候補日を提示。その後、各委員の日程を調整。 日程ですが、5月22日（金）午前10時より開催させていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。 ＜委 員 了 承＞ 第8回以降につきましても、田中副委員長からのお話でもありましたように、昨年同様、年間通して早めに日程調整をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。
明 石 委員長	それでは次回の開催日程は事務局から説明がありましたとおり、5月22日（金）の午前10時から開催させていただきたいと存じます。皆様よろしいでしょうか。よろしくお願いします。会場はどちらでしょうか。
事務局	会場と資料につきましては改めて文書でお知らせいたします。ちなみに、次回は本日と同じ議運・理事会室を押さえていたと思います。
明 石 委員長	場所等については、追って連絡があると思いますのでよろしくお願いします。それと先程の中間まとめですが、修正し調整をさせていただいたものをお送りさせていただくということでよろしいでしょうか。後日、委員の皆様のお手元に届きますので、よろしくお願いします。それでは、次回5月22日（金）午前10時から開催します。
事務局	改めて1年間ありがとうございました。熊本市にも100を有に越える審議会等ございますが、そのうちの8割くらいは2回くらいしか開催しません。こういった形で年間6回、熱心なご議論をいただく委員会は非常に稀だろうと思ってい

	ます。明石委員長、田中副委員長はじめ、皆様方のご協力に感謝申し上げます。 私ども事務局が属しております企画振興局が来年度からは市民局になります。政令指定都市の中でも「市民」という言葉が使われていなかったのが熊本市だけで、我々も違和感を持っていたのですが、新市長も市民は自分のシンクタンクということで、新市長を迎えて政令指定都市のセカンドステージに向かう中、基本となることが皆様方にご議論いただいております情報共有になろうかと思っております。今回、事務局の職員も異動する者が出てくるかと思います。事務局を代表しまして、皆様方のいろんな意味でのご理解、ご支援に感謝申し上げますと共に、来年度も一層のご協力をお願いしましてご挨拶とさせていただきます。 本当にありがとうございました。
明 石 委員長	これをもちまして本日の委員会は終了とさせていただきます。ありがとうございました。